

令和 7 年 2 月 20 日  
伊集院高等学校

## 令和6年度 第2回学校関係者評価委員会 報告

1 日 時 令和7年2月19日(水) 15:00～16:00(60 分)

2 場 所 本校会議室

3 日 程

- (1) 開会のことば(教頭)
- (2) 校長あいさつ(校長)
- (3) 学校関係者評価委員会について(教頭)
- (4) 各部・各学年からの年間総括
  - ・ 各部から(教務・生徒指導・進路指導・保健部の各主任)
  - ・ 各学年から(各学年主任)
- (5) 質疑応答及び委員からの提言等
- (6) 今年度の部活動実績
- (7) 閉会のことば(教頭)

4 出席者

外部評価委員 3 名(欠席者2名には資料配付), 本校評価委員 10 名 計 13 名

### <質疑応答詳細>

(委員 B)

単元テストについて成果は出ているか。また、職員のまとまりがいいようだが、何か工夫していることがあるか。

(教務主任)

単元テストに変更してから取組が良くなった生徒が増えているように感じる。模試成績や大学合格実績等を踏まえたさらなる検証が必要であると考えている。

(1学年主任)

考查期間でなく、通常の授業日に最大3科目の単元テストが実施されるので、勉強に追われる生徒が散見されている。生徒が準備不足になりがちである。

(3学年主任)

意識の高い生徒は「直前の詰め込みでなく、普段の勉強の大切さ」を再認識し、他の生徒にもその旨助言している様子がある。いい傾向であると考えている。

(校長)

職員のまとまりの良さについては次の3点を感じているところである。

- ①「100周年記念事業」が職員の高いモチベーションになっている。
- ②「2人担任制」により、主任以外がほぼ全員正担任であり、全体として当事者意識が高い。
- ③3学年が取り組んでいる日々題について、その成果を共有できたことで学年団のモチベーションが上がった。

(委員C)

単元テストの結果が良くなかった生徒への追試・フォローはどうしているか。また、学習については、勉強時間よりも中身の濃さが大事ではないかと考えている。と同時に睡眠時間の確保も重要であるので、しっかり確保するような指導を実践して欲しい。LHRの時間確保が不十分であったことに対する対応としては、3Kタイム等の有効活用もアイデアの一つではないか。

(教務主任)

物理では、追試というよりは解き直しを指示している。科目によっては追試を実施している場合もある。また、生徒の答案から授業の改善点を教えてもらっており、指導方法の改善に役立っている。

(2学年主任)

2年の英語では、答案返却時に50分かけて解説を行っている。積み上げ教科なので、小さな躓きを逃さずフォローするよう心がけている。

(3学年主任)

3年の数学では、単元テストの結果が良くなかった生徒への追試は、基本問題中心で行っている。部活動等への影響が出ないよう配慮しながら実施してきた。それでも結果が思わしくない生徒には個別対応を取っている。

(委員A)

勤務している中学校では、席次を廃止し度数分布表を配布するように変更したが、「席次が示されないと子どもが勉強しなくなるのではないか」という保護者からの意見もあり、難しい。学習評価に対する保護者の意識改革も大事ではないか。中学生にとって明確な考查期間が示された定期考查は「計画を立て、準備を進める練習」という観点で意義はあると考えるので、定期考查は継続する。ただし通知表の配布は3回から2回に減らす。